

北里大学病院を受診された患者さん・ご家族の方へ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (整理番号)	救命救急・災害医療センターとの連携によるくも膜下出血管理の臨床的特徴および転帰についての単施設後方視的および一部前方視的研究 (B24-015)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部脳神経外科学 講師 小泉 寛之
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の概要・背景・目的	<p>当院の救命救急・災害医療センターの最も大きな特徴として、初療から退院までを完結させるというシステムである「自己完結型」の救命救急センターです。そして、当センターのスタッフは救急専門医、集中治療専門医以外に、脳神経外科はもちろん、多岐にわたる専門医が常駐しており、その各専門医とコメディカルがチームを形成し診療を行うことができるのが最大のメリットとしています。このシステムのお陰で、迅速な対応を可能にしています。くも膜下出血後の管理もこのシステムの中で行われます。くも膜下出血では発症後2週間以内に脳血管攣縮という現象が発生し、約30%の患者さんで脳梗塞を起こして後遺症が悪化したり死亡するという問題があり、当院でも様々な治療法や薬剤で対処を行ってきました。</p> <p>2015年までは脳血管攣縮治療にプロトコルがなく、くも膜下出血管理において上述したセンターのメリットを最大限に活かすきれないでいました(第一次治療群)。そこで2015年4月から、くも膜下出血の周術期管理プロトコルを作成することで治療方針を統一し、救命センターと共同で治療を行いました(第二次治療群)。脳血管攣縮治療の新薬であるエンドセリンA受容体拮抗薬のクラゾセタンナトリウム(商品名ピヴラツ点滴静注液 150mg)の製造販売が2022年1月20日に承認され、2022年4月の発売以降、臨床現場で有効性が確認されつつあります。そこで、2023年8月から救命センターでのメリットは残しながら、プロトコルを一新してクラゾセタンナトリウム単剤での治療に切替えを行っています(第三次治療群)。</p> <p>非常に大きな転換点である上述の3つの異なる時期の治療群における救命救急・災害医療センターとの連携によるくも膜下出血管理の臨床的特徴、転機について単施設後方視的および一部前方視的に検討し、より良くくも膜下出血管理による後遺症の悪化を軽減することを目的としています。</p>
調査データ 該当期間	2012年1月1日から2029年3月31日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さん	上記期間内に破裂脳動脈によるくも膜下出血院で入院され外科的治療を行なった患者さんです。
研究の方法 (使用する試料等)	利用する情報 2012年1月1日から2029年3月31日までの紙カルテ・電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。

<p>利用又は提供を開始する 予定日</p>	<p>利用又は提供開始予定日： 研究機関の長の許可日から</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究の遂行のための費用は、脳神経外科学医局研究費を使用します。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け、適切に管理されます。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。</p> <p>ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属・職位：脳神経外科 講師 担当者：小泉 寛之(コイズミ ヒロユキ) 電 話：042-778-8111</p>
<p>備 考</p>	